

ゴールデン・スポーツイヤーズが やってくる！

～スポーツで関西を盛り上げよう～

2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズと、大規模な国際スポーツ大会が日本・関西で連続して開催される「ゴールデン・スポーツイヤーズ」。

スポーツ振興による地域活性化に大きなポテンシャルを持つ関西でも、この3年間を契機に大きな飛躍を遂げようと検討が始まっている。

関西のスポーツに関する ポテンシャルと課題

スポーツ産業は、「日本再興戦略2016」で「新たな有望成長市場」に位置づけられたり、「未来投資戦略2017」に未来開拓の実行が盛り込まれたりするなど大きな期待が寄せられている分野である。高齢化の進む日本では、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）を伸ばして労働力を確保することや社会保障費を抑制するこ

となどが課題となっており、国民の健康増進に寄与するという点でもスポーツが果たす役割は大きい。

日本の近代スポーツは、明治期に居留地の外国人から伝播する形で発祥し、マラソン、ゴルフなど特に神戸港を擁する関西を起点として全国に普及した競技が多いとされている。1900年代前半には関西の企業が競技会の開催・施設整備・実業団チームの結成などに積極的に取り組み、近代スポーツの発展・定着に大きく貢献してきた。そのような歴史的背景もあり、関西にはスポーツ産業のリーディング企業、



グローバルニッチトップ企業が多数存在し、阪神甲子園球場や東大阪市花園ラグビー場など「聖地」と称される競技場が立地している。また近年では、スポーツとの親和性が高い健康・医療・観光産業が関西において発展しており、大きな相乗効果が期待されている。

これらのことから、関西にはスポーツ振興により地域が活性化するポテンシャルがあると考えられる。

ゴールデン・スポーツイヤーズの到来

そのポテンシャルをより高め、発揮する大きなチャンスが「ゴールデン・スポーツイヤーズ」である。ゴールデン・スポーツイヤーズとは、ラグビーワールドカップ(RWC)2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(東京2020大会)、ワールドマスターズゲームズ(WMG)2021関西と、大規模な国際スポーツイベントが連続して開催され、国内外の多くのアスリートやスポーツファンなどから日本・関西が注目される3年間を指す。

なかでもRWC2019やWMG2021関西は、関西で競技が行われるイベントであることから、スポーツに関する環境整備をはかり、その振興を進める上で非常に重要な機会となるため、関西一体となって大会を成功に導くことが求められる。当会でも、行政をはじめとする関係者と連携して積極的にさまざまな取り組みを進めている。

ラグビーワールドカップ2019開催概要

4年に1度開催されるRWCは、夏季オリンピック、サッカーワールドカップに次ぐ規模の世界三大スポーツイベントの一つ。

開催期間：2019年9月20日～11月2日

開催地：日本全国12会場

試合数：20カ国・地域による48試合

関西で開催される試合：

● **東大阪市花園ラグビー場**

9/22 イタリア vs アフリカ地区代表

9/28 アルゼンチン vs トンガ

10/3 ジョージア vs フィジー

10/13 アメリカ vs トンガ

● **神戸市御崎公園球技場**

9/26 イングランド vs アメリカ

9/30 スコットランド vs ヨーロッパ・オセアニア
プレーオフ勝者

10/3 アイルランド vs ヨーロッパ地区代表

10/8 南アフリカ vs 敗者復活予選優勝チーム

*大会の詳細はHPをご参照ください。

<https://www.rugbyworldcup.com/>

ワールドマスターズゲームズ2021関西開催概要

WMGはおおむね30歳以上であれば誰でも参加できる、4年に1度の生涯スポーツの国際総合競技大会。2021年大会の開催地は関西。

開催期間：2021年5月14日～30日

開催地：関西一円

実施競技：32競技55種目

開催目標：選手5万人(国内3万人/国外2万人)

参加申込期間：2020年2月～2021年2月(予定)

*大会の詳細はHPをご参照ください。

<http://www.wmg2021.jp/>

特にWMG2021関西は、RWC2019、東京2020大会と大きく性格が異なり、おおむね30歳以上であれば誰でも参加できる、いわば「する」スポーツの国際的な祭典であり、スポーツのすそ野拡大に大きな意味を持つ。そこで当会としても、関西WMG2021組織委員会(会長：井戸敏三 関西広域連合長、松本正義 関西経連会長)と協力し、より良い大会づくりに向けて検討を重ねている。



関西WMG2021組織委員会常任委員会(17年10月27日)

本年4月にニュージーランド・オークランドで開催されたWMGへは関西の経済界中心に約150名の視察団を派遣。帰国後には関西大会成功に向けた課題などについて、関西WMG2021組織委員会との意見交換会を開催した。会議では、「認知度を高めるためには、だれでも参加できるハードルの低い大会だということをもっと広めるべき」「広域開催のため、



WMG オークランド大会の開会式(17年4月30日)

盛り上がり分散しない工夫が必要」「言語対応など、外国人参加者に対するおもてなしをよく検討するべき」「大会参加をきっかけに関西のファンになってもらい、リピーターとして何度も旅行などで訪れてもらえるよう、参加者が満足感をもって帰れるようなイベントに」など活発な意見交換が行われた。

このほか本年10月には、ゴールデン・スポーツイヤーズに向け機運を盛り上げるイベントとして、関西の経済団体・自治体などと共催で講演会を開催(P.5参照)。今後も官民一体となって機運醸成に資する活動を展開していく。

スポーツ振興に関する 関経連の取り組み

当会では、2016年度に関西におけるスポーツ振興の可能性、意義などについて公開情報等をもとに整理を行い、本年2月に開催した関西財界セミナーではスポーツ振興に関する分科会を設置した。分科会では、スポーツを通じた地域振興や経済成長などについて熱心な議論が交わされ、生涯スポーツの先進地域をめざすことなどを関西財界セミナー宣言に盛り込んだ。

第55回 関西財界セミナー宣言

※関連部分のみ要約

- 生涯スポーツ先進地域を目指す。
- ゴールデン・スポーツイヤーズに向けた機運醸成と受入環境整備を推進する。
- 関西のスポーツ関連産業の課題やビジョンを共有のうえ、オール関西で協議・具体化していくための組織を検討する。

この流れを受け、本年5月、当会は今後の関西におけるスポーツ振興を推進すべく「スポーツ振興委員会」を新たに設置、本格的な検討を開始した。

■スポーツ振興委員会を中心とした検討

スポーツ振興委員会では、初年度の活動の基本方針として、中長期的な視点での①「関西のスポーツ振興および周辺産業活性化に向けた戦略の検討」と、そのための重要な機会としての②「ゴールデン・スポーツイヤーズのPR強化と地方創生に資するレガシーの検討」の2点を掲げている。その推進にあたっては、より具体的な検討を実施する「関西スポーツ振興戦略検討チーム(以下、検討チーム)」を委員会の下部組織として設けている。



市立吹田サッカースタジアム視察会(17年9月9日)

スポーツ振興に関する戦略の検討にあたり、現在は競技団体および学識者などへのヒアリングや現地視察を随時行っている。

第1回の検討チームでは、大阪体育大学の藤本淳也教授より「関東が東京2020大会の準備に全力を注いでいる間に、関西では、スポーツを利用した長期的な発展ビジョンを地に足をつけて整えていくことが重要」とのアドバイスをいただいた。

スポーツには「する」・「見る」・「支える」などさまざまなかわり方があるが、どのような形であれスポーツに携わる人々のすそ野を拡大していくことは、観光や健康・医療といった関連産業の振興にも不可欠である。当会ではスポーツのすそ野拡大は、トップアスリートの存在とも関連性があると考えており、今

スポーツ振興検討のためのタスクフォース

- 本年8月、関西広域連合と関経連との意見交換会にて、関西のスポーツ振興に向けた施策を官民が連携して検討する体制の設置について合意し、当会、関西広域連合、関西WMG2021組織委員会により9月に設置。



関西広域連合との意見交換会(17年8月3日)

- 11月までに4回開催。拡大メンバーとして大阪商工会議所、神戸商工会議所、関西経済同友会を迎え、主に生涯スポーツの振興に向けて関西の官民でどのような取り組みが可能か、検討を行っている。

後、トップアスリートの育成のあり方やスポーツ実施環境の充実なども含め、具体的な検討を進めていく。

また、広く一般の人々にスポーツへの参画を促すには行政の果たす役割も大きいため、関西広域連合などと共同で「スポーツ振興検討のためのタスクフォース」を9月に立ち上げた(P.4参照)。生涯スポーツの振興に向け、課題などを整理するとともに、

今後連携して取り組むべき具体的な事業についても議論を進めている。

当会ではこれからも、関西におけるスポーツ振興の実現およびゴールデン・スポーツイヤーズに開催される3大会の成功に向けて、積極的に取り組んでいく。

(地域連携部 坂田拓朗)

講演会「ゴールデン・スポーツイヤーズに向けて」を開催

2017年10月17日、当会は大坂商工会議所、神戸商工会議所、関西経済同友会、関西広域連合、スポーツコミッション関西と共催して講演会を開催。経済界、行政の関係者ほか約110名が参加した。

元ラグビー日本代表の大畑大介氏、スポーツマーケティング等が専門の原田宗彦 早稲田大学教授による講演のほか、RWC2019、WMG2021関西について両大会組織委員会からプレゼンテーションが行われた。

「根拠のない自信を信じろ！ ～根拠はおのずとついてくる～」

元ラグビー日本代表
大畑 大介 氏

「根拠のない自信を信じろ」——この言葉は、私が選手生活で積み重ねてきた成功体験から得た言葉である。高校入学当初、私には選手として目立った実績はなかったが、「高校日本代表になる」と強く決意し、懸命に努力した結果、3年生の時に高校日本代表に選出された。初めは無謀に思える目標であっても、自らの意思と努力で手の届く目標に変えることができると実感した。

2015年のRWCで、日本代表が強豪南アフリカに勝つとはだれも予想していなかった。勝利を信じ続けたヘッドコーチと、厳しい練習に耐えた代表チームが、あの勝利を呼び寄せた。試合を見た多くの人々はそこに心を動かされたのである。

過去私が参加したRWCは多くの人で非常に盛り上がっていた。2019年大会は、関西では大阪・神戸の2都市が会場となる。皆さんにもぜひ楽しんでいただきたい。



「スポーツによる 地域・産業の活性化」

早稲田大学スポーツ科学学術院教授
原田 宗彦 氏

日本のスポーツ界では、アマチュアイズムからビジネスイズムへのパラダイムシフトが起こっており、政府でもスポーツ庁が“スポーツの成長産業化”に向けた取り組みを進めている。近年、消費傾向が「モノ」から「コト」へ移る動きがみられ、スポーツ産業にとっても新たなビジネス機会が到来している。スポーツイベントなど「コト」を提供するなかで、高付加価値の「モノ」を生産・販売していくという観点が重要である。

特に、スポーツツーリズムは、さまざまな業種が連動してビジネスが生まれるため、今後、大きな成長が見込まれており、その担い手としてスポーツコミッションの設立が全国で進んでいる。観光の分野に強みがある関西にとっては、大きなチャンスである。最近では、日常的にスポーツに親しむ空間を作るパークマネジメントの概念も注目されており、今後さらに活用が進むとみられている。

